

令和5年度 東京都立大泉高等学校経営計画

1 目指す学校

府立第二十中学校からの良き伝統を引き継ぎながら、多くの都民から期待されるなか平成22年に附属中学校を開校し、併設型中高一貫校として14年目を迎えた。令和4年度から高等学校段階の募集がなくなり、実質的な中高一貫教育校となった。6年間を通した一貫した教養教育により、自ら課題を見つけて意欲的に学ぶ力を育成するとともに、国際社会にリーダーとして貢献できる資質の高い人材を育成するための学校である。

【スクールミッション】

「自主・自律・創造」を教育目標に、6年間の系統性とゆとりある中高一貫教育の中で、物事の真理を深く考え、筋道を立てて明らかにする探究活動等を通して、夢の発見と実現に向けたきめ細かな教育の実践により、国際社会で活躍する多様な人間力を育成します。

【スクール・ポリシー】

(1) グラデュエーション・ポリシー

高い倫理観とあくなき探究心を兼ね備えた国際社会のリーダーを育成するために「自ら学び真理を究める力」「自ら律し、他を尊重する力」「自ら拓き、社会に貢献する力」を育成する。

(2) カリキュラム・ポリシー

基礎・基本の徹底をし、個に応じた指導を充実させ、生徒の学力の向上を図り、難関国立大学を含む国公立大学に現役で合格できる学力を身に付けさせる。そのために、探究も含めたすべての教科で、附属中学校・高等学校の6年間を見通した系統的な指導及び課題解決型の授業を推進する。

(3) アドミッション・ポリシー

各教科の学習に真剣に取り組み、入学後も学習及び特別活動においての向上が期待できる生徒、総合的な探究の時間において、物事を多様な角度から探究しようとする意欲を有する生徒の入学を望む。

2 中期的目標と方策

(1) 組織的な探究活動

- ① 全国的に探究活動の推進が図られている状況を踏まえ、推進知的探究部を中心として、教科、学年と連携した体制により、附属中学校・高等学校の6年間を見通した系統的な指導を学校全体でより一層推進する。
- ② 高校1・2・3年生の「探究と創造(QC)」を中心に、Global Education Network 20と関連し英語を活用した探究活動を推進する。
- ③ 高校1・2・3年生の「探究と創造(QC)」を中心に、すべての教科・特別活動で探究活動を推進する。
- ④ 探究活動を推進に当たり、データサイエンスや統計処理の手法を適切に取り入れるとともに、全校生徒が個人端末を利用して、積極的にネットワークや学習支援システムを活用する。
- ⑤ OIZUMI AWARDの開催に向けて、すべての教職員の共通理解と協力体制を整える。

(2) 組織的な進路指導

- ① 進路キャリア部を中心とした附属中学校・高等学校の6年間を見通した進路指導により、生徒の進路実現・自己実現に向け各分掌・学年が組織的に機能する体制を構築する。
- ② 進路キャリア部が中心となり、学年と連携し、定期考査、外部模試などの結果を分析し、その分析に基づく指導を行う。
- ③ 全学年対象の進路情報交換会を実施し、共通理解を図る。
- ④ キャリアパスポートを利用した電子調査書対応を計画的に進める。
- ⑤ 組織的な講習・補習や保護者との面談などを実施する。
- ⑥ 新学習指導要領実施に向けた、新しい学力に関する成果を検証する。

(3) 「チーム大泉」としての学習指導の向上

- ① 基礎・基本の徹底を図るとともに、個に応じた指導を充実させ、生徒の学力の向上を図る。
- ② 難関国立大学を含む国公立大学に現役で合格できる学力を身に付けさせ、進学実績の向上を図るなど、「チーム大泉」としての指導力の向上を図る。
- ③ 大学入学共通テストに向けて、記述力や論理的思考力の向上を図るとともに、知的探究活動、教科の指導内容の検討を推進する。
- ④ 教科会を充実させることで、各教科の更なる質の向上を目指す。
- ⑤ 新学習指導要領を円滑に実施する。

(4) 特別活動の充実・発展

- ① 様々な学校行事や部活動などを通じ、生徒の自主・自律・創造の精神や後輩を育成する意識を育て交友、将来的に心身ともに逞しい社会的リーダーとなる素養を身に付けさせる。

(5) 国際理解教育・国際交流の推進

- ① Global Education Network 20 として、国際理解教育や国際交流を進める。
- ② 国際交流リーディング校、海外学校間交流推進校として、留学生や学校訪問を積極的に受け入れることにより、海外の高校等との交流活動を積極的に推進する。

(6) 広報活動の推進

- ① 広報活動を充実させ、本校の教育活動を広く都民に伝え、募集対策に積極的に取り組む。

(7) ICT機器利用の推進

- ① 各教科でICT機器の活用を推進するとともに、Society 5.0に向けた学習方法研究校の成果を活用し、生徒が授業や進路関係においてネットワークと機器の効果的な活用を推進する。
- ② 探究活動や各教科で個人端末を有効に活用する。

- ⑧ 高等学校募集停止による学級数の変更が始まるが、校内組織、環境整備、人員配置の検討を継続する。

3 今年度の取組目標と方策

(1) 教育活動の取組目標と方策

① 知的探究活動

ア 知的探究部を中心として、教科、学年と連携した附属中学校・高等学校の6年間を見通した系統的な指導を学校全体で周知し、全ての教員が探究活動を推進する。

イ 高校1・2・3年生の「探究と創造(QC)」においてデータサイエンスや統計処理の内容を充実させる。

ウ すべての教科・特別活動で探究活動を推進するために、各教科で指導計画を整える。

- エ すべての教職員の共通理解と協力体制を整えるため、附属中学校と連携した6年間の指導計画（大泉ソーシャルイノベーションプログラム）を周知する。
- オ 全校生徒が個人端末を利用して、積極的にネットワークや各種ソフトウェアを活用する。
- カ ラーニングコモンズの活用を図る。

② 進路指導

- ア 附属中学校でのキャリア教育と一体化し、中学校、高等学校6年間を見通した進路計画の改善・充実を図る。
- イ 大学受験結果の分析とそれに基づく指導体制の充実を図る。
- ウ 進路検討会、模擬試験のデータの分析とその分析に基づき、全ての教員の指導を充実させる。
- エ 進路キャリア部が中心となり長期休業中の講習を組織的に実施する。
- オ 保護者を交えた三者面談を随時実施する。
- カ 電子調査書への対応として、学年と連携して生徒のキャリアパスポートの活用を推進する。
- キ 高校1・2年生でGPSアカデミックを引き続き実施する。

③ 学習指導

- ア 各教科で共通理解を図ることで新学習指導要領の円滑な実施を図る。
- イ 教科会で6年間の指導計画・内容の周知・徹底を図り組織的な教科指導を行う。
- ウ 定期考査等の分析により基礎・基本の定着状況を随時把握する。
- エ 応用力を育成するために発展的な内容の学習へ取り組む。
- オ 全教科でアクティブラーニングを推進する。
- カ 全教科において、教師が「問い」を発することを意識し、探究活動を推進する。
- キ 表現力・記述力を向上させるために言語能力の育成に組織的に取り組む。
- ク 高校から入学した生徒に対して習熟度別授業や少数指導を行うことで学力の向上を図る。
- ケ 探究活動として高校1・2・3年生で「探究と創造」（QC）の授業を実施する。
- コ オンライン英会話を活用し、4技能の中でも特に「聞く・話す」の能力の向上を図る。
- サ ノーチャイム制にともない、時間に始まり、時間に終わる授業を実施する。
- シ 学校評価アンケート分析の結果や管理職による授業観察での助言等を参考として授業力向上のための課題解決を図る。
- ス 教員相互の授業見学や指導教諭の授業への参観を行う。
- セ 自習室の環境整備を引き続き実施し、活用を推進する。

④ 生活指導

- ア 附属中学校と連携した生活指導を実施する。
- イ 生徒相互や生徒と教員間の「挨拶」を励行するとともに、学校生活のすべてにおいて「時間を守る」態度を身に付けさせ、社会生活の基礎と互いに尊重する心を養う。
- ウ 交通ルールの遵守と自転車通学マナーを向上させるとともに、自転車通学におけるヘルメット着用を推進する。
- エ スクールカウンセラー、養護教諭、担任の連携を強化し、いじめの早期発見を図るとともに、事案発生時は学校いじめ対策委員会を中心にいじめ防止と対策について検討する。

⑤ 特別活動・部活動

- ア 多くの体験活動を通して、生徒の自信を高めさせ、協力することの大切さや日々の努力の積み重ねの大切さ等に気付かせ、困難にめげない力を高める等、活動を通して、人間的な力を高めさせていく。
- イ 学級減に伴い、部活動の統廃合・顧問配置について検討を進める。

- ウ 総合的な子供の基礎体力向上施策に基づく体力向上を図る。
- ⑥ 国際理解教育・国際交流の推進
- ア 国内語学研修、海外語学研修、海外修学旅行を通して国際理解教育と国際交流を推進する。
- イ 海外修学旅行においては十分な調査と安全対策の確立、生徒・保護者への丁寧な説明、業者との連携を綿密にとることで円滑に実施する。
- ウ 国際交流コンシェルジュと連携を取りながら留学生や学校訪問の受け入れを行なう。
- ⑦ 健康づくり
- ア 校内美化を推進し、コンディションレポート等を活用することで健康的で安全な学習環境づくりに努める。
- イ 防災教育について防災教育推進委員会が中心となり、関係機関と連携を図りながら組織的・計画的に実施する。
- ウ スクールカウンセラーを活用し、高校1年生全員への面談を行い、精神的な課題のある生徒の早期発見に努めるとともにカウンセリング機能を充実させる。
- ⑧ 学校2020レガシーの推進
- ア 文化プログラム・学校連携事業実施校として、「日本の食文化」に対する理解を深める取組を推進する。
- ⑨ 特別な支援が必要な生徒への適切な支援体制
- ア 障害者差別解消法に基づく合理的配慮を適切に実施する。
- イ 必要に応じて「通級による指導」制度を活用する。
- ⑩ 自殺対策に資する教育の推進
- ア 東京都教育委員会作成資料「SOSの出し方に関する教育を推進していくための指導資料」を参考に生徒理解に努め、未然防止に努める。
- ⑪ 校内環境の整備
- ア 施設の安全管理を徹底する。
- イ 自習室等学習環境の整備を推進する。
- ⑫ ライフ・ワーク・バランスの推進
- ア 「学校における働き方改革推進プラン」に基づき、学校の業務改善を推進する。
- イ テレワークの活用と計画的な仕事の進め方により、業務の効率化を徹底し、教職員一人ひとりのライフ・ワーク・バランスの実現を図る。
- ウ 水曜日に帰りのHR・清掃を実施しない日を定めることにより会議等の時間設定を図る。
- エ 日々挨拶とコミュニケーションを積極的にとることにより、明るい職場風土づくりを推進する。
- オ 管理職は、毎月、長時間労働者への超過時間の通知と産業医面接の実施により、教職員の組織管理や時間管理、健康安全管理を行う。
- ⑬ 経営企画室と一体となった学校経営の推進
- ア 経営企画室と教員組織が円滑に連携を図り、施設管理は予算執行管理を適正に行う。
- イ 施設・設備の点検と維持管理を強化し、安全管理と事故防止に努める。
- ウ 経営企画室は都民サービスの視点に立った窓口業務、広報活動を推進する。
- ⑭ その他
- ア 年間を通じた服務事故防止研修会を実施、個人情報管理、サービス管理、危機管理の徹底を図る。

(2) 重点目標と方策

① 6年間を見通した組織的な探究活動の実施

- ア 本校の柱である探究活動について全教員が協力して推進を図る。
- イ 附属中学校と連携した新たな6年間を見通した探究活動計画（大泉イノベーションプログラム）を円滑に推進する。
- ウ 高校1年生と高校2年生での探究活動「探究と創造」（QC）の円滑な実施と充実を図る。
- エ 「探究と創造（QC）」及び全教科で探究活動を推進し、新学習指導要領と大学共通テストへの対応を推進する。

② 6年間を見通した組織的な進路指導の実施

- ア 中高一貫教育校の生徒たちに、6年間を見通した組織的な進学指導の実施を適切かつ確実に遂行することで第一希望の進路実現を支援する。

③ 学習指導・教科指導力の向上

- ア アクティブラーニング、探究型学習などの指導力向上に向けて教科主任を中心として検討し、6年間を見通した教科指導計画と内容について教科の全教員の共通理解を図る。
- イ 校外の研修や指導教諭の授業を参観することで「チーム大泉」としての組織的な教科指導力の向上を図る。
- ウ 新学習指導要領の円滑な実施に向けて、各教科での準備を進める。

④ ICT機器を活用した授業、オンラインでの授業対応を推進する。

4 数値目標

(1) 学習指導

生徒の授業満足度	85%
講習満足度	85%
夏季講習	70講座（1～3年）
夏季講習申込人数	1,000名
冬季講習	30講座（1～3年）
冬季講習申込人数	300名
定例教科会	12回/年
教員相互授業見学	3回/年

(2) 生活指導

部活動 都ベスト64以上	3部
部活動入部人数	非加入率5%以下
行事満足度	80%
校内美化	75%

(3) 進路指導

国公立大学現役合格	55名	（受験者数 100名、うち難関大学12名）
難関私立大現役合格	110名	（受験者数 180名）
私立主要大学現役合格	180名	
センター試験各科目平均点	80%	
模擬分析会	2回（1, 2年）	3回（3年）

(4) 広報活動

ホームページ更新	800回
----------	------